

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム 白松苑		
所在地	山口県山口市阿知須4900番地4		
電話番号	0836-65-2250	事業所番号	3577600244
法人名	社会福祉法人 正清会		

訪問調査日	平成 21 年 11 月 13 日	評価確定日	平成 22 年 3 月 18 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 9 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	15 人	常勤 8 人 非常勤 7 人 (常勤換算 12.1 人)	

(2)建物概要

建物構造	鉄骨(S) 造り	
	2 階建ての	1 ~ 2 階部分

(3)利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 18,600 円	敷金	無 円
保証金	無 円	償却の有無	無
食費	朝食 300 円	昼食 300 円	
	夕食 300 円	おやつ 100 円	
その他の費用	月額 6,200 円		
	内訳 日用品費		

(4)利用者の概要 (10月23日現在)

利用者数	18 名	男性 名	女性 18 名
	要介護1 5	要介護4 2	
	要介護2 5	要介護5	
	要介護3 6	要支援2	
年齢	平均 86.4 歳	最低 76 歳	最高 99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医科 阿知須共立病院 歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

利用者の一人ひとりの思いや意向を尊重し、献立もその日の話題で盛り上がった内容に変更されています。レクレーションを予定されていても希望に添って散歩や外出に出かけておられます。併設施設の車椅子を多数借用し、ボランティアの協力のもとで、普段車椅子に乗れない方も車椅子に乗り(車椅子14人、独歩2人)(不参加2人)、地域のさげもん祭り等に長時間でかけられて、楽しく過ごされるように支援されています。

(特徴的な取組等)

「家族のように共に生活する」「地域の方とふれあいをもつ」という理念にそって運営推進会議が活発に行なわれており、多方面の地域の方々がメンバーになられて事業所の行事に協力を申し出られています。ソーメン流しの竹を作成されたり、車椅子を押される中学生グループや婦人会、法人のOBの方々がボランティアとして活躍されています。事業所も地域からの依頼により年3回程度、認知症や入浴の仕方などの講演や相談に応じておられ、地域に密着した事業所になっています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

運営推進会議に外部評価結果を報告して意見を求められたり、職員会議で検討されています。運営推進会議のメンバーに、警察署や消防署の職員、食事の面で食生活推進員を追加することを検討されて働きかけをしておられます。

(今回の自己評価の取組状況)

管理者が職員会議で説明し、項目ごとに意見交換をしながら検討し、管理者がまとめて作成されています。職員は評価の意義について理解し、意見交換の中で、利用者本位のケアをしていくことを再認識して共有し、自分達のケアを見直して、サービスの質の向上に活かされています。

(運営推進会議の取組状況)

定期的開催し、自治会長、老人クラブ会長、民生委員、婦人会長、地元の老人会長、地域の認知症家族の会会長、レストラン経営者、市地域包括支援センター職員、社協職員、家族(2~3名)、職員等のメンバーで、状況報告や外部評価報告などで活発に意見交換をされ、行事や外出時の応援、災害避難訓練の協力など、運営に活かされています。

(家族との連携状況)

年4回発行の事業所便りに、担当者のコメントや写真、金銭出納の写し、法人の白松苑便りを添えて送付されています。面会時や電話、家族会等でも暮らしぶりや健康状態を報告され、職員の異動も連絡されています。

(地域との連携状況)

法人で自治会に加入し、ふれあい祭り、ふるさと祭、文化祭などの地域行事や中学校の運動会等に積極的に参加されています。事業所の祭りや法人全体の祭り、散歩や買い物等で地域の人と交流され野菜や花などを頂いていおられます。職員は地域からの要請で、年3回出張講座に出かけておられます。

評価結果

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印・(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1 (1)	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「家族のように共に生活する。地域の方とふれあいをもつ」という事業所独自の理念に、職員の提案で「地域活動に参加します」という方針も作成している。		
2 (2)	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を玄関に掲示し、朝の申し送りやユニット会議で理念を共有し、理念の実行について話し合っている。		
2. 地域との支えあい				
3 (7)	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	法人で自治会に加入し、ふれあい祭り、文化祭などの地域行事や中学校の運動会等に積極的に参加している。事業所の祭りや法人の祭り、散歩や買い物等で地域の人と交流し、野菜や花の差し入れもある。職員は年3回出張講座で地域に出かけている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
4 (9)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者が職員会議で説明し、項目ごとに意見交換をしながら検討して、管理者がまとめて作成している。職員は評価の意義について理解し、意見交換の中で、利用者本位のケアをしていくことを再認識して共有し、自分達のケアを見直している。		
5 (10)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	定期的に行われ、地域のメンバーを含めて幅広く12名を選任して状況報告や外部評価報告などで活発に意見交換をし、行事や外出時の応援、災害避難訓練の協力など、運営に活かしている。		
6 (11)	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	身元引き受け人についての相談や助言を貰ったり、書類や法的手続きなど、主管課や地域包括支援センターと行き来をして連携している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制				
7 (16)	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	年4回発行の事業所便りに、担当者のコメントや写真、金銭出納の写し、法人の白松苑便りを添えて送付している。面会時や電話、家族会等でも暮らしぶりや健康状態を報告され、職員の異動も連絡している。		
8 (18)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族交流会や運営推進会議で意見交換をしたり、面会時や電話等で声かけをし、家族の意見や苦情を聞き運営に反映している。苦情相談窓口や担当者、外部機関、第三者委員を明示し、苦情処理の手続きを定めている。玄関に意見箱を設置している。		
9 (20)	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤8名、非常勤7名を確保し、非常勤職員のうち5名は、法人の定年退職者を雇用しており、行事や利用者の要望、職員の急な休みに柔軟に対応している。		
10 (21)	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職は最小限に抑え、やむを得ず変わる場合は日勤2週間、夜勤1回の重複勤務を行い、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援				
11 (22)	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修は段階的に受講、法人内の研修は年間計画を立て、毎月全員参加に努めている。欠席者には必ず復命している。資格取得はケアマネ3名、介護福祉士1名が挑戦している。管理者が常に働きながらのトレーニングを行っている。		
12 (24)	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会や山口市グループホーム協議会に加入し、研修会に参加したり、勉強会や交流会を行なっている。山口市グループホーム協議会で市内20施設からの施設見学を受け入れて交流したり、施設見学に出向いてサービスの質を向上させている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
13 (31)	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人や家族が見学に来所し、お茶を一緒に飲んだり馴染みの関係づくりをしたり、職員が利用者の自宅や特養、デイサービスなどに出向いて馴染めるように工夫している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
14 (32)	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は生活を共にしながら、お米の研ぎ方や野菜の切り方、味付け、芋掘り、稲の植え付けなどを教わるが多く、先輩として敬意、和やかな時が流れ、支えあう関係を築いている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
15 (38)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	全職員が日常の暮らしの中での何気ない会話や態度、表情などから利用者の思いや意向の把握に努め、ケース記録や連絡ノートに記入し、カンファレンスで共有しケアに活かしている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
16 (41)	○ チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族の意向を聞き、主治医の意見(ケアマネが代行)を参考にしながら担当者が立案し、月1回のカンファレンスで全員が話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した計画を作成している。	
17 (42)	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	基本的には3ヶ月毎の見直しをしているが、毎月モニタリングをして変化があれば家族の意向を聞き、関係者と話し合っており、その都度新たな計画を作成している。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
18 (44)	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	医療機関への受診の送迎、入院時の見舞いや衣類の洗濯、理美容院の送迎や自宅訪問(畑なども含む)、親しんだ地域の祭りの付き添い、墓参り、外食、買い物など、柔軟な支援をしている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
19 (49)	○ かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用開始時にかかりつけ医の希望を聞き、本人や家族の希望に応じ、協力医療機関がかかりつけ医になっており、医療連携体制(加算)のもとで、往診をしてもらったり、情報交換などを行なって、適切な医療が受けられるよう支援している。		
20 (53)	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	「看取りに関する方針」を定め契約時に説明し、重度化した場合は関係者と話し合い全員で方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
21 (56)	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	法人の研修を受け、全職員が誇りやプライバシーに配慮した言葉かけや対応に取り組んでいる。記録類は目につかない場所に保管している。		
22 (59)	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	本人の気持ちを大切に、一人ひとりのペースに添って支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
23 (61)	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	三食ともホームで作っており、畑でつくった野菜を取り入れて利用者の希望の献立にしたり、職員と一緒に、買い物、調理、後片付けなどを力量に応じて行って、みんなで和やかに食事を楽しんでいる。		
24 (64)	○ 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴は毎日14時から18時まで、一人ひとりの希望に添ってゆっくりと楽しめるよう支援している。入浴を嫌がる場合は声かけを工夫して入浴に導いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	温泉、果物狩り、お花見、歌、紙手芸、カレンダー作りなどの楽しみごとや掃除やお米とぎ、野菜切り、味付け、食事の後片付け、野菜作りなど、活躍できる場面づくりをして気晴らしの支援をしている。	
26 (68)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	毎日の散歩や買い物、野菜作り、外食、地域行事への参加などその日の希望に添ってできるだけ多くの外出を支援している。車椅子の利用者もボランティアの応援を得て外出している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	マニュアルがあり、法人内の「虐待防止委員会」の研修に参加し、ミーティングで周知徹底している。職員は正しく理解し、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	
28 (75)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	職員は施錠の弊害を充分に理解しており、日中は施錠していない。外出を察知したら、職員が同伴している。	
29 (78)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	法人のリスクマネジメント委員会活動や研修を受け、全員が事故防止について学習している。ヒヤリはっと報告書や事故報告書に記録し、職員間で検討して一人ひとりに応じた事故防止に取り組んでいる。	
30 (79)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	年1回、法人の行う救急救命研修は受講しており、酸素吸引機も設置している。緊急時対応マニュアルも作成しているが、一人ひとりがすぐに対応できるような定期的訓練は行っていない。	・応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施 ○
31 (81)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	法人内に防災委員会があり、年2回避難訓練(夜間想定を含む)を実施しており、隣接の特養職員及び地域の人々の協力もある。ホームのみで風水害の訓練も行っている。法人で備蓄は準備されている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	○	・薬の副作用の把握
33 (86)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
34 (87)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
35 (88)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。		
37 (93)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	・外部の浄化槽の臭気の改善

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム白松苑
所在地	山口市阿知須4900-4
電話番号	0836-65-2250
開設年月日	平成 12 年 9 月 1 日

【サービスの特徴】

・調理や盛り付け、配膳など出来る事を分担しながら、3食共に皆で作っています。入浴も毎日可能です。温泉や果物狩り「たまには外で食べたいね」の入居者の一言で、みんなで外食に出かけるといった小回りの効くアクティブな運営を行っています。

・協力病院や併設の特別養護老人ホームからの応援体制により、健康管理も充実しています。

【実施ユニットの概要】（10月18日現在）

ユニットの名称	グループホーム白松苑やすらぎ			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名	
	要介護 1	1	要介護 4	1
	要介護 2	2	要介護 5	
	要介護 3	5	要支援 2	
年齢構成	平均 84 歳	最低 76 歳	最高 94 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	各自で記入し、意見を出し合い、仕上げました。
評価確定日	平成 21 年 10 月 18 日

自己評価票

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営 1. 理念の共有				
1 (1)	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	理念に「地域の方と触れ合いを持つ」方針「地域活動に参加する」を加えた。		
2 (2)	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を揚げ、申し送りやカンファレンスにて職員間で意識・啓発し、取り組んでいる。		
3	○運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	申し送りや話し合いの中で確認し、理念を揚げ共有している。		
4	○運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	法人組織としてサービス向上に向け、改善など職員と共に取り組んでいる。		
5	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	運営推進会議や家族の面会時、地域の老人会の会合に出かけ、話をしている。		
2. 地域との支えあい				
6	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。	グループホーム周辺の散歩に出かけた時、会った人には挨拶の言葉を交わしている。		
7 (3)	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	法人として自治会に参加しており、地区行事(夏祭り)地域行事(文化祭、ふるさと祭り)学校行事(運動会)に参加する。		
8	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	地域の会合に出かけ、認知症予防の話をしている。地域の方の相談を受けたこともある。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価書は全員で関わっている。外部評価の結果も全員に伝え、改善策を話し合っている。	
10 (5)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	茶話会等でグループホームを知ってもらい、意見や要望を出してもらい、出来る事から実施している。	
11 (6)	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議以外の助言をいただく。	
12	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	地域福祉権利擁護事業・成年後見制度についての知識・理解は出来ている。今まで必要な方がおられない。	
13	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員は苑内研修で虐待防止について学び、絶対あってはいけないと認識している。	
4. 理念を実践するための体制			
14	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、重要事項説明書、利用契約書の説明をし、疑問点等はいつでも聞いて下さるよう促している。	
15	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見・不満・苦情はその都度対応している。介護相談の訪問も受け入れ、日々のケアに生かしている。	
16 (7)	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	「白松苑だより」を年4回「グループホーム新聞」を年4回家族に配布し、利用者に関する事、職員に関する事を報告している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	○情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	いつでも応じている。		
18 (8)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	窓口・第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		
19	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	業務改善レポートを全職員に求め、業務改善に努めている。		
20 (9)	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	非常勤職員を2ユニットで7名確保し、急な休みにも対応できている。		
21 (10)	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	異動や離職は、必要最小限に抑えるようにしている。家族や利用者に説明し、スムーズな交代に努めている。		
5. 人材の育成と支援				
22 (11)	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	人事育成制度があり、役割・目標の計画を立て実行できるよう、脳力開発カードの育成を行っている。		
23	○職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	20歳代から70歳代まで特養介護経験者の人員配置し、利用者の暮らしに対応している。		男性介護員の配置
24 (12)	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	阿知須福祉施設職員レクリエーション交流会に参加し、交流を持っている。山口市グループホーム協議会に加入して、勉強会・交流会を通して、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	日頃からコミュニケーションをとり、話しやすい関係を心掛けている。		
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	人事制度があり目標を揚げ、目標に向かって努力している。		
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	人事制度があり、職員が向上心を持って働けるよう、職能評価を行っている。		
．安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	事前の訪問に出かけ、事前のアセスメントを的確に行い、本人が安心して入居できるよう職員間で話し合い、迎える。		
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	家族の立場になって話をよく聞き、受け止め、グループホームで出来る対応を説明をさせてもらう。		
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談者の話を聞き、ここでどのような対応が出来るか説明する。又、急いでおられる場合や、難しい場合等については、他のサービス機関等も紹介する。		
31 (13)	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人や家族に見学に来てもらったり、職員が訪問し、馴染みの関係を作る。本人と家族が話し合われて、本人が納得されて入居されるようお願いをする。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者は人生の先輩であるという考えは、職員が共有している。家事仕事をしながら、生活の知恵を利用者から教えられた事、又励まされた事はしばしばある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族との情報交換をしながら、利用者が安心して生活ができるよう協力し合っている。又、信頼関係にもつながっている。		
34	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	面会時には、お互い有意義な時間を過ごしていただけるよう、配慮し話題の提供をしている。		
35	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の方と協力し、個別に外食されたり、自宅へ帰られている。		
36	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士が声かけしながら、フロアへ出てこられたり、「一緒に運動しましょう」と、仲良くされている。		
37	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居時には説明を行い、退居先に安心して移れるよう支援している。又、相談にも応じている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握				
38 (15)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個人を尊重し、その方のニーズを把握し、その方らしい暮らしが続けられるよう検討し、支援する。		
39	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	プライバシーに配慮しながら、前サービス提供者からの情報・生活歴等で、これからの暮らしの把握に努めている。		
40	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	その人らしい暮らしが続けられるよう、現状を総合的に把握するように努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
41 (16)	○チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族がどのような生活がしたいか意向を聞き、アセスメント・モニタリング・カンファレンスを行い、今出来る事を続けられる、生き甲斐のある介護計画を立てている。		
42 (17)	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	1ヶ月毎のモニタリングで見直しを行っている。設定期間内での見直しも必要時行っている。		
43	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の記録は食事・水分・排泄・入浴・うがい手洗い記録・ケアプランの実施状況等を記録している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
44 (18)	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	状況に応じて、ショートスティの利用を受けている。医療連携体制を取り、24時間医療管理をしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
45	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	ふれあい祭りに中学生ボランティアの協力があり、阿知須公民館で開催される文化祭への作品展示の見学を行っている。しめ縄作りもボランティアの方と行っている。		
46	○事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	地域の方に茶話会の開催(運営推進会議時)、フロンティア大学の実習生の受け入れ、家族・地域ボランティアの見学の受け入れをしている。今年は市町・県の新人職員研修を受け入れている。		
47	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	必要に応じて対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加されているので、関係が強化された。。現在まで必要な方がおられない。	○	必要時には地域包括支援センターと協働して取り組む。
49 (19)	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族の希望に応じている。家族との連携を密にし、本人の健康管理に努めている。		
50	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力病院の脳外科で受診できる。また、宇部片倉病院への受診ができ、月1度の医師の訪問がある。		
51	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	特養の介護体制との連携のもとに、平成19年9月より医療連携加算体制をとっている。		
52	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時にサマリーを提供して、支援方法を伝えている。退院については、病院や本人、家族との連絡をとり、話し合っている。		
53 (20)	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	「看取りに関する指針」を定め、本人、家族、医師と話し合い、方針を共有している。		
54	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化や終末時に向け、「看取りに関する指針」を定め、利用者の対応を考えている。		
55	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移転先に対してはプライバシーに配慮しつつ、情報を提供している。本人の移転に対するダメージを最小限に抑えられるよう支援する。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
56 (21)	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	利用者の誇りやプライバシーに配慮した対応に職員全員で取り組んでいる。	
57	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	わかりやすいように話しかけたり、選びやすいように声かけを工夫し、自分で決めてもらう。	
58	○ “できる力”を大切にしたい家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	今出来ている事が継続できるよう、その方に出来る事をその方のペースで行う事で自信・やりがいにつなげている。	
59 (22)	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者の誇りやプライバシーに配慮した対応に職員全員で取り組んでいる。ペース・希望も聞き、その人らしい一日を過ごしてもらえるよう支援する。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	ご自分で着替えができていない方もあり、出来ない所を手伝う。理美容院も付き添う。	
61 (23)	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	野菜を作り、食卓に添えることもあったり、一緒に買い物に出かけ、食事作りをみんなで楽しんでいる。その方に出来る事を手伝って頂けるよう支援している。	
62	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	栄養ドリンクを自分で持っておられ飲まれている。10時、15時のお茶の時間はコーヒーやお茶等希望の飲み物を飲んでい。現在は酒・タバコを希望される方はいない。	
63	○ 気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	定時のトイレ誘導や仕草から察知し、トイレの声かけする。失敗された時には、声かけに工夫し、スムーズに交換する。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	14時頃から何時でも入浴できる。希望があれば、午前中でも入浴できる。		
65	○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	昼間眠ることで、夜眠れない方は、時間を見計っている。体調に合わせて休息してもらう。各自のリズムに応じて休息の時間をとっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	米とぎをして下さる方、野菜切りをして下さる方、味付けをして下さる方、食器拭きをして下さる方と色々調理に関わったり、カラオケにも熱心に参加されておられる。		
67	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人が持参され、理美容院代や、買い物なども自分で支払っています。お預かりしている方もあり、お祭りの時には一緒に付き添い、買い物される。		
68 (26)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	買い物への外出、ご自分の家へ付き添い出かけて、畑仕事もされる。お地藏様、八幡様、外食には、みなさんで出かけている。		
69	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	お墓参りやご家族と外出(外食)に行かれている。		
70	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族と電話で話をされている。		
71	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	プライバシーに配慮しながら、本人の近況を報告したり、お茶等の接待をしている。		
72	○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	いつでも対応できるが今まで希望されていない。	○	希望時には適切な対応に努める。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73	○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	敬老会や運営推進会議への参加を呼びかけている。玄関にお知らせ版を設置して行事予定を掲示し、参加を呼びかけている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
74 (27)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	虐待防止委員会(苑内)が、月一回ある委員会の内容を報告し、職員の共有確認を図っている。		
75 (28)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけないケアを職員で話し合い、日中は開放している。外出される時には、交通量も多くなるので、一緒に散歩などしている。		
76	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は職員が連携しながら見守りをしている。夜間は夜勤者がすぐ対応、2時間毎の見守りを行っている。		
77	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	リネン庫は必要時鍵をかけている。浴室は、鍵をしないで日中は、開放している。包丁は夜間流し台の下に収納し、鍵をかけている。		
78 (29)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	リスクマネジメント委員(苑内)があり、年2回の苑内研修に全員参加、事故報告書の検討・活用し、利用者状況を職員で共有し、事故防止に努めている。		
79 (30)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急救命研修(担当・看護師・医師)があり、参加している。緊急時対応マニュアルを作り、対応出来る様にしている。		
80	○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故ニアミス報告書を整理・活用し、改善策は職員で話し合っている。年2回苑内研修に参加している。必要に応じてリスクマネジメント委員会で検討している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	警察や消防署、ご近所の方にも協力してもらえるよう、働きかけている。特養からの応援も得られ、防災委員会があり防災訓練を年2回行っている。		他の施設の防火訓練の見学に行っています。
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時に説明している。利用者の状況変化に応じて、家族や看護師に連絡をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調変化に注意し、異常があれば、看護師に連絡し、指示を受けている。必要があれば、病院に受診する。		
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	お薬手帳、薬の説明書の整理をしている。薬は名前を確認しながら、手のひらに手渡し、服用を確認している。必要な情報は看護師に連絡している。		
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排便チェックを行い記入している。水分補給を行い、無理の無い程度の運動を心掛けている。排便の確認が取れない方は腹部の観察をしたり様子を観察している。必要時看護師に報告し、指示を受けている。		
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、うがい液でうがいをしたり、義歯洗浄を行っている。義歯は夜間洗浄液(ポリデント)につけている。		
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量、水分量を記入している。定期的に医師、看護師の健康チェックも受けている。又、特養の管理栄養士にもアドバイスをもらっている。		
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染防止委員会(苑内)があり、年2回の研修を全員が参加している。マニュアルを作り、予防や対策を行っている。利用者、職員は毎年インフルエンザ予防接種を受けている。		
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具は使用後漂白をしています。冷蔵庫の点検、掃除、食材の賞味期限等にも気を付けています。食材はなるべく新鮮なものを購入し冷凍はなるべく使わず調理している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<u>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</u> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関回りにプランター鉢を置き、花・野菜を植え、明るい玄関回りにしている。水稲栽培も行いました。利用者と共に花植え、水やりも行っている。	
91 (36)	<u>○居心地のよい共用空間づくり</u> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	畳の間があり、洗濯物をたたまれたり、冬はこたつに入れ団欒の雰囲気がある。利用者が生け花をされ、飾っておられたり、水槽に魚を飼って餌やりもされている。	
92	<u>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</u> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングの窓際にソファを置き、外の景色が見えるようにし、四季を感じてもらっている。	
93 (37)	<u>○居心地よく過ごせる居室の配慮</u> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前や入居時に説明を行い、本人が使用されていたタンスや布団類を持ち込まれ、使用されて安心されている。	
94	<u>○換気・空調の配慮</u> 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	午前、午後共に利用者に不快のないように換気を行い、空調も行っています。湿度計も設置し、状況に応じて配慮している。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<u>○身体機能を活かした安全な環境づくり</u> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	歩行器やシルバーカーが移動しやすいよう生活環境を整えている。その人の状態にあった介護用品を使用している。	
96	<u>○わかる力を活かした環境づくり</u> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	一人ひとりのわかる力を見極めて、不安・困乱をまねくような場合は、その都度職員で話し合い、不安材料を取り除き、修理や工夫している。	
97	<u>○建物の外周リや空間の活用</u> 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	居室のベランダに花・ネギなど作られています。道路側の畑で季節の野菜・花などを作られ、毎日のように活動ができています。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1 回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1 回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、活き活きと働けている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム白松苑
所在地	山口市阿知須4900番地の4
電話番号	0836-65-2250（代）09064131249（直）
開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日

【サービスの特徴】

調理や盛り付け 配膳など各自ができることを分担しながら3食をともに作り共に頂いています。時にはお好みの献立に変更するなど楽しいお食事になるように努めています。温泉や果物狩り お花見など季節を感じて頂ける外出も行っています。日常は、各自ゆっくりと過ごす時間を大切にしてのんびりと過ごして頂いています。若い職員とベテランの非常勤職員の調和の取れた介護で明るい雰囲気を作り出しています。協力病院と併設施設の応援体制により健康管理も充実しています。

【実施ユニットの概要】 （ 10 月 18 日現在 ）

ユニットの名称	グループホーム2(いこい)			
ユニットの定員	9 名			
ユニットの利用者数	9 名	男性 0 名	女性 9 名	
	要介護 1	4	要介護 4	1
	要介護 2	2	要介護 5	
	要介護 3	2	要支援 2	
年齢構成	平均 88.3 歳	最低 81 歳	最高 99 歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	職員で意見を出し合い検討してまとめました。
評価確定日	平成 21 年 10 月 18 日

自己評価票

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印・(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1 (1)	<u>○地域密着型サービスとしての理念</u> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	理念に「地域の方とふれあいをもつ」方針に「地域活動に参加します」を掲げている。		
2 (2)	<u>○理念の共有と日々の取り組み</u> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を掲げて朝の申し送り時やユニット会議等にて職員間で常に意識の啓発に取り組んでいる。		
3	<u>○運営理念の明示</u> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。	常に職員の目にあたる所に掲げ明確に示している。		
4	<u>○運営者や管理者の取り組み</u> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。	運営者の基に管理者が職員と一丸となりサービスの質の向上に取り組んでいる。		
5	<u>○家族や地域への理念の浸透</u> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	地域とふれあいを持ち生活するという理念を家族の面会時や運営推進会議等の話題にし理解していただけるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
6	<u>○隣近所とのつきあい</u> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ったりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。	畑仕事をされている方と挨拶を交わしあい花や野菜の苗を頂くなど良いお付き合いをさせて頂いている。		
7 (3)	<u>○地域とのつきあい</u> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入し夏祭り等の地区行事や文化祭・ふれあい祭り等の地域行事、運動会などの学校行事に参加している。		
8	<u>○事業所の力を活かした地域貢献</u> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	出張講座に出向き地域の高齢者とふれあい認知症介護技術の伝達やレクを交えて楽しんで頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
10 (5)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。		
11 (6)	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
12	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するように支援している。	○	必要な人に対し活用できるように関係者と連携し支援できるように制度を理解できるように学ぶ場を持つ。
13	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
14	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
15	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。		
16 (7)	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。		白松苑だより(年4回)グループホーム新聞(年4回)を家族に配布し利用者や職員に関することを家族に報告している。3か月ごとに通帳のコピーを家族に送付し金銭管理等も報告している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	○ 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	面会時等 必要時や希望時には情報開示の要望に応じている。		
18 (8)	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	苦情等の受付を掲示し、玄関にふれあいの箱を置き入居時に説明している。面会時には困り事や要望がないか声をかけて聞いている。運営推進会議に第三者委員さんも参加さ、ご家族に「意見があれば聞かせて欲しい。」と常に投げかけられている。		
19	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝の引き継ぎ時やユニット会議等で意見や改善提案を聞き入れ業務改善に努めている。		
20 (9)	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	非常勤職員を2ユニットで7人配置し利用者の要望や職員の急な休みにも対応し勤務の調整ができている。		
21 (10)	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動や離職は必要最低限に抑えるようにしているが、退職・産休などで職員の異動が多く行われた。家族や利用者にはよく説明しスムーズな交代ができている。	○	ユニット間で職員の交代をし顔なじみを増やすことも考える。
5. 人材の育成と支援				
22 (11)	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員各自に応じた研修を受けられるように計画している。法人内の研修には全員が参加し知識の向上に努めている。		
23	○ 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	職員は20代から50代と幅広い年齢層を配置している。臨時職員は特養・ディーサービスでの介護経験を生かした職員を配置し利用者の暮らしに対応している。	○	男性介護員の配置
24 (12)	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会に参加している。勉強会や交流会を通じ情報交換をしサービスの質の向上に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○ 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	日ごろからコミュニケーションを図り話しやすい関係作りに心がけている。		
26	○ 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	人事制度があり半期ごとに目標を掲げて目標に向けて努力している。		
27	○ 職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	人事制度があり職員が向上心を持ち働けるように職能考課を行っている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	○ 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	非常勤職員を2ユニットで7人配置し利用者の要望や職員の急な休みにも対応し勤務の調整ができています。		
29	○ 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	事前訪問に出かけ事前のアセスメントを適切に行い本人や家族が安心して入居できるように職員間でよく話し合いをもち迎える。		
30	○ 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談者の話を聞きグループホームでどのように対応できるかを説明し、急がれている場合や対応が難しい時は他のサービス機関の紹介をする。		
31 (13)	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	本人や家族に見学に来ていただいたり職員が出向いて顔なじみの関係を作る。本人と家族が話し合われて納得されてからの入居をお願いしている。		
32 (14)	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者は人生の先輩という気持ちを職員が共通に持っている。一緒に料理や家事をしながら生活の知恵を教えて頂くこともある。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
33	○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	常日頃よりコミュニケーションを図り情報交換をしながら利用者に安心して生活していただけるように協力している。		
34	○ 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	良い家族関係が持てるように面会時は話題の提供をして有意義な時間を過ごしていただくように支援している。		
35	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	自宅に戻ったり地域の祭りに出向き顔なじみの人とふれあいが持てるように支援する。家族の協力の基に墓参りや外泊をし個別支援をしている。		
36	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士が部屋を訪ねあったり腰や肩をさすってあげるなどほほえましい場面もよく見られる。		
37	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去時には説明を行い退去先に安心して移動できるように支援している。入院中の利用者の様子を見に行ったり声をかけている。相談にも乗っている。		
38 (15)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個人を尊重し、ニーズの把握に全職員が努めている。その人がその人らしく生活が送れるように支援することを心掛けている。		
39	○ これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	プライバシーに配慮しながら家族などから情報提供を受けてこれまでの生活環境やリズムを大切にしている。		
40	○ 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	職員間で常に情報を交換して利用者の現状を総合的に把握するように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	○チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族にどのように生活したいのか意向を聞きアセスメントを行う。モニタリング・カンファレンスを行い、生きがいのある生活が送れるように介護計画を立てている。	
42 (17)	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	モニタリングを行い見直しを行っている。認定機関内の見直しも必要時に行っている。	
43	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	食事・水分摂取量・排便記録・うがい手洗い記録・入浴記録・ケアプランの実施記録をつけて行っている。	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	状況に応じてショートステイの受け入れも行っている。医療連携体制をとり医療管理を行っている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	公民館の文化祭に作品を出展し、ふれあい祭りには中学生のボランティアを受けて車椅子で出かけている。	
46	○事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している（認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等）。	地域の方と運営推進会議のときに茶話会をもっている。学生の実習を受け入れたり、県や市町の新人職員研修も受け入れ認知症の理解やかかわりを体験していただいている。	
47	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	現在 他のサービス支援は行っていない。	。 必要に応じてサービス事業者と連携を持ち支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加されることがあるので関係が強化されてきている。		
49 (19)	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人や家族の希望に応じて対応している。家族と情報交換をし本人の健康管理に努める。		
50	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力病院の受診ができる。宇部の片倉病院に受診ができる。		
51	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	特養の看護体制との連携によりH19年9月より医療連携加算体制をとっている。		
52	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時にはサマリーを提供して支援方法を伝えている。		
53 (20)	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	「看取りに関する指針」を定めて契約時に重要事項説明書で説明している。重度化した場合は家族・医師・看護師を交え話し合いを行う。		
54	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度化や終末期に向け「看取りに関する指針」を定めて医師・看護師・職員が連携をとり対応できるよう取り組んでいる。		
55	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	プライバシーに配慮しながら移動先に情報の提供を行う。本人の移転に対するダメージを最小限に抑えられるように支援する。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
56 (21)	○ プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	利用者のプライバシーと誇りに配慮した言葉かけや対応に職員全員が取り組んでいる。	
57	○ 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	わかりやすく説明をしたり、どちらか選んで頂けるように言葉かけを工夫して本人に決めて頂けるように支援している。	
58	○ “できる力”を大切にした家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。	現在できることを続けていけるように各自に応じた仕事を自分のペースでやっていただき自信や生きがいに繋がる力を大切にしている。	
59 (22)	○ 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人ずつのペースで一日を過ごして頂けるように支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○ 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	洋服は選んでいただき更衣の難しいところはお手伝いしている。希望時には理・美容院につき添っている。	
61 (23)	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	畑で野菜を育てたり炊事のお手伝いをして頂きその方にできる範囲で関わっていただけようように支援している。	
62	○ 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。	10時と15時に好みの飲み物と茶菓子を用意してみんなでともに頂いている。夕食後はくつろぎながらお茶を飲まれている。現在は酒やたばこを希望される方はおられない。	
63	○ 気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを観察しながら動作から察知してトイレ誘導を行っている。失禁時は速やかに対応し更衣している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	14時ころより入浴ができる。入浴嫌いの方も声かけを工夫し入浴していただくように対応している、		
65	○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	本人のペースに合わせ昼食後ベッドに横になっていただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事の後始末を生きがいにしておられる方や針仕事を楽しんでおられる方、歌を歌うことが好きな方など、その方に合った場面作りを支援している。		
67	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人や家族の希望でお預かりしている人も多いがお小遣いを持っておられる方もいる。お祭りのときなどお好きなものを買って頂いている。		
68 (26)	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	希望があれば出かけていく機会を作っている。(畑・お墓参りなど)		
69	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族の了解と協力を頂きながら可能な限り本人の行きたいところに出かけれるように支援している。		
70	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家に電話したり姉妹やお友達家族にお手紙を書かれることもある。		
71	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会はいつでも迎えらるような体制になっている。		
72	○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	今まで希望者がおられない。	○	希望時には適切に対応していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	夏祭り・敬老会・運営推進会議など参加をお願いしている。外出する時にはお知らせ版で留守をすることを伝え参加を募っている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
74 (27)	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	虐待防止委員の計画する研修に参加したり外部の研修にも参加している。		
75 (28)	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	施錠しないケアを職員で話し合い理解し取り組んでいる。夜は、夜勤者が2時間ごとに見回る、		玄関にはセンサーが設置してある。日中は鍵をかけずに対応している。
76	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に所在を意識し危険がないように配慮している。		
77	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	リネン庫と風呂場には必要時には施錠ができる。夜間は包丁を流し台の下に保管し鍵をかけている。		
78 (29)	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	リスクマネジメント委員が活動しており苑内研修で事故防止の研修を全職員が受けている。ニアミス・事故報告書の整理活用をし利用者の状況を職員間で共有し事故防止に努めている。		
79 (30)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急救命研修(看護師・医師による)が苑内で企画され研修に参加している。緊急時対応マニュアルはすぐに手にできる場所にあり対応することができるようにしてある。		
80	○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故報告書・ニアミス報告書を整理活用し改善策を職員で話し合っている。苑内での研修に参加し事故発生防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	苑内では防災委員が活動し年に2回の避難訓練を行っている。運営推進会議等で地域の方の協力をお願いしている。併設特養の応援が得られる。		
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時に家族に説明している。面会時には常に利用者の現在の状況を説明して起こりうるリスクについて話をしている。		
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	体調変化に注意して異常があれば看護師に連絡をして支持を受けている。必要時には受診をしている。		
84 (32)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	使用している薬が個別に把握できるように一覧表にしている。薬手帳・薬の説明書の整理をしている。服用時には各自の手に渡し確実な服薬の確認を行っている。常に必要な情報は看護師に伝えている。		
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	バナナ酢を取り入れて排便サポートをしている。水分を補給し適度な運動を心がけている。排便表を作り排便状況を把握し3日見られないときは看護師に連絡をして指示を仰いでいる。		
86 (33)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後にうがいをし頂き義歯洗浄をしている。夜間は義歯洗浄液につけている。		
87 (34)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量・水分摂取量を記録し確認している。特養の管理栄養士からアドバイスを受けている。		
88 (35)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染防止委員が活動し年2回の研修を企画し全職員が研修を受けている。マニュアルを作り予防や対策を行っている。利用者・職員とも全員が毎年インフルエンザの予防接種を受けている。		
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板や布巾は使用後に漂白殺菌をしている。冷蔵庫の点検をして掃除・食材の賞味期限切れにも注意している。食中毒の発生しやすい時期は刺身を献立から外している。新鮮な肉や魚を購入しなるべく冷凍を使っていない。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
90	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	気持ちよくお客様をお迎えするために玄関周りにプランターを置いて花を植えて世話をしている。		
91 (36)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	歩行器やシルバーカーの置き場所が利用者の歩行の妨げにならないように気をつけている。家族や職員の家の庭に咲いた花を飾ったり利用者や職員の手作り作品を飾って季節感のある空間を作るように努めている。廊下にソファを設置し一休みする場所になっている。		
92	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	エレベーター前のソファは家族の面会時などに対話の場になっている。廊下に置かれたソファに座り自由に過ごせるように配置している。		
93 (37)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前や入居時に説明をし、本人が今まで使用されていた馴染みの家具や人形を置かれている。面会時には花を持ってきて飾られる家族もある。		
94	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気に注意し空気がよどまないように配慮している。温度・湿度調節はこまめに行い気をつけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
95	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	廊下に手すりが付き安全に歩行ができるようにされている。歩行器やシルバーカー場移動しやすいように生活環境を整えている。その人に合った介護用品を使用している。		
96	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレの場所が分からない利用者のためにトイレの案内カードを使用している。夜間は居室のポータブルを使用される人が多い。		
97	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	裏の空き地を利用し、野菜や花づくりを楽しんでいる。ベランダにもプランターをおき季節の草花を楽しんでいる。昨年より緑のカーテンを作る為にゴーヤやへちまを植えて成長を楽しんだ。		

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
・サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない